

多摩30市町村 第一回下水道情報交換会の開催報告

伊藤 和良

ITOU Kazuyoshi

芦森工業(株)
(本誌編集企画小委員)



平成24年10月11日(木)北多摩二号水再生センターにおいて、東京都下水道局流域下水道本部主催(協力:日本管路更生工法品質確保協会)の多摩30市町村第一回下水道情報交換会が開催されました。

開催のきっかけは東日本大震災で、東北地方では下水道処理施設、管路に甚大な被害を受け、ライフラインとしての機能をなくした施設によって、多くの人々が生活に支障をきたし、感染症の危険性も高まるなど、危機感をもたされた事です。

高度防災都市づくりを最重要施策に位置づけている東京都も決して他人事ではなく、多摩30市町村でもできることから早急に取り組まなければならないという機運が高まり、今回の情報交換会開催への運びとなった模様です。

多摩地区の下水道は昭和40年代から供用が開始され、敷設後45年ほど経過した管きょもあり、本格的な老朽化対策が間近に迫っています。

そのため、第一回下水道情報交換会のテーマは更生工法を取り上げられました。下水道管きょへの更生工法による改築はたんなる老朽化対策だけではなく、合わせて耐震性能も付加できる非常に優れた工法であ

り、開削工法に比べて安価で、騒音、振動なども少ないなど、多くのメリットを持ちます。

情報交換会ではパワーポイントなどによる工法説明などの後に、屋外に設営された各工法の施工デモンストラーションを見学して理解を高められました。更生工法は東京都から認定を受けている工法の中から、製管工法3工法(SCR工法・3Sセグメント工法・パルテムフローリング工法)、反転・形成工法5工法(オメガライナー工法、EX工法、シームレスシステム工法、オールライナーZ工法、FFT-S工法)、非破壊検査法の他、取付管部の穿孔工法(オメガライナー工法、パルテムSZ工法)の実演も実施されました。

多摩30市町村からの参加者は130名ほどで、当日は悪天候も予想されていたものの、見学時には晴天となり、10月中旬とは思えない気温の高まるなかで、熱心に見学されていました。更生工法はその施工方法にしても千差万別であり、製管工法ではプロファイルを製管機によって製管していくもの、プラスチック製のセグメントを管内で組み立てていくもの、鋼製リングにかん合部材、表面部材をはめ込んでいくものなど

製管工法



写真-1 SCR工法



写真-2 3Sセグメント工法



写真-3 パルテムフローリング工法

様々です。反転・形成工法に関しましても熱可塑性樹脂を使用する工法と熱硬化性樹脂を使用する工法（CIPP）がありますが、施工方法は、蒸気加熱、温水加熱、光硬化など工法によって様々です。各工法とも東京都下水道局の技術評価基準を満たして認定されて

いる工法ですから、優れた施工性と性能を持ち、品質管理体制についても万全です。今回、また今後の情報交換会によって、これから改築事業に取り組む市町村の方々の管更生工法に関する理解が深まり、効率的なライフラインの構築につながることを期待します。

反転・形成工法



写真-4 オメガライナー工法



写真-5 EX工法



写真-6 シームレスシステム工法



写真-7 オールライナー Z工法



写真-8 FFT-S工法

取付管部の穿孔工法



写真-9 取付管部の穿孔工法



写真-10 非破壊検査法